

目的 従来の袖ぐり線と袖ぐり線を変えた袖ぐりを試案した。この兩者についてブラウスを試作し、着用実験にもとづき、狭長・標準・肥満のる体型の動作によるブラウスたけのつり上がり量、官能評価を検討してきた。今回は、体型の差について検討した。

方法 昭和51年～53年、年令19才～20才の健康な成年女子でローレル示数によるる体型各5名の動作によるブラウスたけのつり上がり量、官能評価が体型の違いによる差の有無を比較した。

結果 つり上がり量、部位、動作により差をみとめたが、全般にわたり、狭長く標準く肥満の順であった。しかし、後中心の右上肢直上上考、両上肢直上上考は各袖とも標準体型の方がつり上がり量が多かった。右脇の動作別つり上がり量の分散分析の結果は、表の通り、体型・袖ともに1%の水準で有意差がみとめられた。

右脇・動作別つり上がり量の分散分析表

動作	体型	袖
右上肢前方水平上考	***	***
右上肢直上上考	***	***
肘を曲げ右指先を左肩に のせ水平に保つ	***	***
両上肢前方水平上考	***	***
両上肢直上上考	***	***

\*\*\* 1%の水準で有意

官能評価、全般に袖についてはA<sub>1</sub>とA<sub>0</sub>の官能評価が高く次いでA<sub>3</sub>A<sub>2</sub>の順であった。A<sub>2</sub>を除いて肥満体型は、る体型のうちで官能評価が最も低かった。官能評価の部位別の分散分析結果は、両上肢前方水平上考及び両上肢直上上考において、体型・袖に1%または5%の水準で有意差がみとめられた。